ボランティア 提供・利用 登録票

<u>ナルク 上田・千曲 拠点</u>

本人・配	偶者(いずれかを で囲む)	平成	年	月	日提出		
ふりがな 氏名	会員 番号	大正 昭和	年	月	日生		
₹		TEL					
住所		FAX					
※ 以下各欄の該当項目の□内に☑印をし、()内を埋めて下さい。							
現時点でボランティア援助活動できますか。 <i>(</i> 活動できる人のみ							
活動できます 🖒 【できる人のみ 】 🖒 〈月に()日、()時間ぐらいはできます。 登録して下さい 活動できる曜日;()()曜日。月()回							
活動できま [.]) 回		
) 🖽		
今は出来ないが 将来はできる その他の事があればご指定下さい。 いつごろからできますか。 <u>予定</u> (
★ あなたが提供できるボランティアに図印して下さい。							
I.家庭内外の 仕事援助 精神的援助 I.家事援助 レスパ・イト・ケアー 含む	□07. 朗読、代筆 □06. □09. 手紙交換 □10. <u>その他</u> □21. 住宅掃除[部屋掃除、台所、換気扇、大掃 □22. 洗濯[洗濯、物干、アイロンかけ] □23. 繕い[手縫い、ミシン利用等] □25. 食事作り[献立作成、下こしらえ、調理、□26. 医療機関との連絡[薬取り、など] □27. 役所、金融機関等との手続き代行[行政	6. 話相手 8. 相談、助言 除、その他] 4. 買い物[徒型 配膳、後片づい	₹、乗物利 け等]利用手続	[き]	优寝)		
Ⅲ. 介助・介護 Ⅵ. 子育て支援	□41. 見守り □42 □43. 車椅子介助 □4 □45. 排泄介助[トイレ誘導、ポータブルトイ □46. 理容[爪切り、散髪、洗髪、髭剃り] □4 □48. 送迎 □49. その他	7. 食事介助	類の着服 へ介助]				
V . 丁肖 € 又抜		2. 学童保育の3 4. 放園・放課1		Ŋ			
★ 現在あなたは会員からボランティアを利用する予定がありますか。 <u>あれば、その内容No.</u>							

裏面

ボランティア 提供・利用 登録票 つづき

★ 生活アドバイザー制度 に参加できますか。該当項目口の何れかに・印して下さい。 □ 参加出来る。 □ 参加しない。						
 ★ 組織活動として手伝い、協力できる項目に□印して下さい。当番条件あれば記入して下さい。 □ コーディネーター □ 会報の発行 □ 事務所当番 [遠条件; □ 会報の手配り;月1回程度 □ 位 例1) 毎週月曜日不可。 □ 組織拡大活動 □ 組織拡大活動 □ 事務(事務局) □ 行事、研修、レクリエーションの企画推進 						
★ あなたの資格、特技、	趣味をお聞かせ下さい。 《 登録番号		下さい。			
	□18通訳 □22危険物取扱主任 □26コーラス □30楽器演奏 □34編み物 □38茶道 □42ゴルフ □46陸上競技 □50魚釣り □54映画鑑賞	□15自動車免許 □19ガイド □23行政書士	イア□08保母 □12マッサージ師 □16()級建築士 □20宅建取引主任 □24税理士 □28珠類 □32洋裁 □36書道 □40水泳 □44野球 □48トレッキング □52族行 □56演劇鑑賞 □60麻雀			
 ★ 上記の資格、特技、趣味の内 (イ)ボランティア活動提供、参加できるもの(1)()(2)()(3)()(4)()番号をご記入下さい (ロ) リーダーとして活動できるもの (1)()(2)()(3)()(4)()番号をご記入下さい 						
★ 希望、意見、得意とする活動、近況報告などお書き下さい。 						

ご協力ありがとうございました。

大切な調査ですので、必ず郵送か、事務所まで直接お届け下さい。

2004年8月15日改訂 標準様式Ⅲ-5

ヘルパーの医薬行為26項目

実際にはやむなく対応しているケースもあるようです。しかし、危険度の高いものや 事故を起こしているケースもあるのでそれについての理解が重要ではないでしょうか。

項目		リスク		備考(緊急避難的対応…生命の危機にさらされる時)
1 点滴の抜針		留置の場合がある	抜針時の感染リスク	・液漏れや異常時は医師・看護師の指示で有りうる
2 酸素吸入		量に対するリスク		・残量の不足、マスクなどが外れた時など
3 経管栄養	×	詰まったり、逆流などカテーテルの交換が発生 感染や管の誤挿入		
4 インシュリン投与	×	低血糖。酷い場合死亡	介護施設でも看護師以外できない	インシュリン投与は危険度が高すぎ、有り得ない
5 気管切開患者の管理指導	-	指導行為なので除外		当然看護師の業務分野
6 気管カニューレ交換	×	感染リスク		
7 たんの吸引		感染リスク	口腔内を傷つける可能性あり	・緊急時の対応は有りうる
	(限定)			H 1 5 . 7人工呼吸器装置の場合の気管内吸引は
				当面のやむを得ない処置としている
				(限定されていることに注意)
8 留置カテーテルの管理	×	感染リスク		
9 導尿	×	感染リスク	挿管で傷つける可能性あり	
10 膀胱洗浄	×	感染リスク	挿管で傷つける可能性あり	
11 褥瘡の処置	×	感染リスク		
12 人工肛門の処置	×	感染リスク		
13 排痰ケア		感染リスク	挿管で傷つける可能性あり	・痰が詰まった場合に緊急避難的対応は有りうる
14 摘便	×	行為による傷害リスク		
15 浣腸	×	誤使用の責任		
16 座薬		誤投与に注意	肛門からの坐薬挿入	
17 食事療法の指導	-	指導行為なので除外		
18 服薬管理		誤投与に注意	一包化された内服薬の内服	・発作時の投薬は有りうる
19 血圧測定				自動測定器の表示記録は有りうるのでは
20 口腔内かき出し				・緊急時は有りうる
21 外用薬の塗布		誤投与に注意(確率極めて低い)		
22 点眼		誤投与に注意	点眼液の点眼	・眼圧上昇などで医師・看護師の指示でなら有りうる
23 爪きり (巻き爪を含む)		巻き爪は医療		整容としての爪切りは可能
24 湿布貼付				
25 鼻粘膜への薬剤噴霧介助			3	
26 電子体温計・耳式電子				
体温計を使った体温測定				

[『]器具を使わない一般市民がする緊急避難的行為』は当然実行できる